

令和7年度

学校関係者評価書(後期)

南アルプス市立芦安中学校

芦安小中学校 学校関係者評価書(後期)

令和8年2月3日(火)

芦安中学校区学校運営協議会作成

第2回芦安地区学校関係者評価委員会(第3回芦安中学校区学校運営協議会)

実施日:令和8年2月3日(火)

会場:南アルプス市立芦安中学校 多目的室

〈芦安中学区学校運営協議会委員〉

会長 伊東 隆雅(芦安地区保護司)
副会長 金川 健太(芦安小中学校PTA会長)
委員 清水 実(芦安子を守る会会長)
委員 功刀 秀樹(南アルプス市みんなで支える芦安協議会代表)
委員 倉園 光代(主任児童委員)
委員 小林 雅人(元芦安中学校校長)
委員 岩間 修司(芦安窓口サービスセンター長)
委員 内藤 薫(芦安地区育成会代表)
委員 名取 大介(学校応援団コーディネーター)
委員 川手 美智子(芦安小中学校PTA副会長)
委員 齋藤 秀平(芦安地区地域コーディネーター)

〈学校職員〉

小学校 松田 晃一(芦安小校長 芦安地区学校運営協議会委員)
齋藤 知美(芦安小教頭)
中学校 大石 浩雄(芦安中校長 芦安地区学校運営協議会委員)
足達 敏弥(芦安中教頭)

〈助言者〉

南アルプス市教育委員会 内藤 大輔(学校教育課課長)
上野 中(学校教育課指導監)
岡田 幸久(学校教育課指導主事)

1. 学校側からの提案した内容

- ・ 芦安小中学校後期学校評価結果と今後の学校運営について

2. 検討していただいた主な内容

- ・次年度の学校経営方針、今後の教育活動について

3. 学校関係者評価委員の意見の集約

(1)学校経営・学校運営

- ・学校と地域が更につながりを深めることで、小さな地域とのきめ細やかな情報共有をして、小さなことから協働して、芦安郷育に繋げていきたい。
- ・生徒の活動・支援を更に向上させていくための方策として、チーム担任制を推進し、生徒との対話の機会を増やし、支援体制の充実を図ってほしい。
- ・働き方の業務改善には、教職員で仕事の仕方や整理等、アドバイスしあえると良い。
- ・持続可能な学校づくりについては、広く意見を聞くための会議を行ったり協議会では住民が主体となって動いたりすることも必要ではないか。
- ・「働き方改革」を推進していくことで、先生方がゆとりを持って仕事ができるように継続した取組をお願いしたい。そうすることで日々の児童生徒の様子がゆとりを持ってじっくりと見守り把握することができるようにしてほしい。

(2)学習指導

- ・教師の自己評価では、ICT機器を日常的に使用している割合が前回よりも高くなってきていることがわかる。今後も、ICTを活用した「個に応じた指導」と子どもたちのスキルの向上も目指した取組をお願いしたい。
- ・子どもたちがICTの活用慣れてくると、情報モラルの教育も必要になる。今後も、道徳や特別活動の授業の中で児童生徒の発達段階に応じた情報モラル教育も実施していく必要がある。
- ・家庭学習の定着については、市も推奨しているICT機器の活用や学習アプリの活用をすすめるなかで、家庭と連携し協力をしながら進めてほしい。

(3)生徒指導

- ・生徒指導においては、大規模な学校に比べてケアが行き届いていると感じる一方で、児童生徒の家庭環境や理念にも関わるため、学校だけで完全に改善することは困難ではないか。学校と専門機関が連携を深めることで、家庭状況の改善が進んでほしい。

(4)保護者・地域との連携

- ・学校、保護者、地域の情報交換や話し合いが改めて大切であると感じた。こどもの様子などをもっと学校に話しに行こうと思う。
- ・ホームページや通信等の情報発信をするだけでなく、保護者が学校教育について、願いや

要望を伝える手段、意見交換をする場や機会をつくることも視野にいれていく。

・児童生徒が少ないからこそ、より深い連携ができればと期待している。

(5)学校の特色ある取組

・芦安中がなくなってしまうと、全校登山の行事がなくなってしまう。とても意義あるものなので、芦安ファンクラブと連携しながら継続していきたい。

・豊かな自然を利用した「体験活動」や「英語活動」は芦安小中学校の特色であり魅力であるからこそ継続して欲しい。そのため活動や取組のねらいや目標を全生徒で共有することも大切だと思う。

(6)その他、気づいた点など

・学校だよりを通して、学校の活動の様子がよくわかる。

・小規模校ですがみんなで頑張って素晴らしい学校にしていきたい。